

様式1 令和7年度 山梨県立甲府昭和高等学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針	学校の教育力・組織力の一層の向上を図りながら、人のために力尽くせる知・徳・体の調和のとれた人材の育成を目指す。
-----------	---------------------------------------------------------

山梨県立甲府昭和高等学校校長 加藤 忠

本年度の重点目標	1 生徒の学びに向かう力を引き出し、甲府昭和高校Can-doリストに掲げた資質・能力の育成を図る。	達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上)	評価	4 良くできている。
	2 さわやか教育を実践し、自ら考え、自主的・積極的に行動できる生徒の育成を図る。		B 概ね達成できた。(6割以上)		3 できている。
	3 地域や関係機関と連携して、教育の充実を図るとともに、安全で安心して学べる教育環境の構築に取り組む。		C 不十分である。(4割以上)		2 あまりできていない。
			D 達成できなかった。(4割以下)		1 できていない。

自己評価			年度末評価(2月17日現在)			
番号	評価項目	本年度の重点目標 具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果		
				達成度	成果と次年度への課題・改善策	
1	①学習意欲の向上を図る。 ②知識や技能を活用して、思考、判断、表現する場を計画的に授業に取り入れる。 ③学習評価を改善し、評価した結果を積極的に生徒、保護者に通知する。 ④教科「情報」に関連する指導を検証し、全校体制を確立する。	①(1)身に付ける資質能力を明確に示して授業を行う。 ①(2)ICT、1人1台端末を日常的に活用し、授業改善を行う。 ②(1)授業において主体性を伸長する探究活動等を設定する。 ②(2)授業において適切な言語活動等により表現力の伸長を図る。 ③(1)7月、11月、3月の教育課程委員会で評価結果の分析と検証を行う。 ③(2)評価結果についての説明を、学期末に生徒・保護者に通知する。 ④(1)情報Ⅰの学習内容や指導方法について検証し改善する。 ④(2)ワーキング・グループを開催し、指導と学習の状況について点検、改善を行う。	・相互授業参観、生徒授業アンケート ・(1)教育課程委員会 ・(2)通知資料 ・生徒・保護者アンケート	A	○各項目の取組、方策をほぼ順調に実行し、教職員はどの項目も95.5%以上が肯定的評価であった。 ・「授業におけるICT及び一人一台端末の活用」や「適切な学習評価とその結果を生徒・保護者に関して通知・説明している」等のアンケート項目は、中間評価に比べて肯定的意見が増加している。 ・①(1)の「身に付ける資質能力を明確に示して授業を行う」は生徒アンケートと30%の開きがあったが、他の方策は生徒、保護者の評価も良好であった。 ・④については、教材の検討や外部課外実施など、具体的な取組を行うことができた。	○学習評価について、評価方法や評価規準の検証を行い、さらなる改善や工夫に取り組んで行く必要がある。 ○文章読解力の向上に加え、主体性や表現力を伸長する取組みが必要である。 ○これまでの共通テスト情報Ⅰの取組みを検証し、生徒の学習を支える体制づくりのさらなる改善が必要である。
2	①5分前行動の推進を図る。 ②より良い学校生活について主体的に考える取り組みを行う。 ③多様性を認め合い、他者思いやる寛容な態度を育成する。	①(1)5分前には登校して着席が完了するよう、教職員全員での指導を徹底する。 ①(2)チャイム席の指導を徹底する。 ②(1)あいさつ運動を実施する。 ②(2)自らの生活をより良くデザインすることが可能となるよう様々なルールづくりに主体的に取り組ませる。 ③ネットモラル講演会(1年生・5月)、いじめ防止の全校一斉LHR(7月)を実施する。	・遅刻者数の集計 ・生徒アンケート ・生徒・保護者アンケート ・講演会、LHRの実施と成果物	B	○落ち着いた学校生活を送れるように生徒指導に取り組んだが、引き続き細かい指導を必要とする生徒が見られる。 ・①について、8時25分間際に登校する生徒が減少し、全体的に登校時間が早まった。 ・②(2)について、生徒や保護者から頭髪、服装の指導及び校則の見直しを求めた声もある。 ・③に関連する交通安全教室やいじめ防止LHR、講演会実施の評価は良好で肯定的意見のみであった。	○5分前行動にも成果が得られたので、職員の共通理解のもと下校時間を守る指導に取り組む必要がある。 ○校内でのルールづくりに主体的に取り組めるよう、支援の必要がある。 ○画像、動画の投稿や拡散など、SNSの使用が発端となるトラブルが全国的に問題となっているので、指導を行う必要がある。
3	①地域、保護者への情報提供を積極的に行い、連携を強化する。 ②教育相談体制、個に応じた指導の充実を図る。 ③業務の削減と整理に組織的に取り組み、教職員各自の研修の機会を確保する。	①学習評価、進路情報、学校周囲の危険箇所など、理解や協力、連携が必要な内容について、BLENDを用いて保護者に積極的に通知する。 ②(1)スクールカウンセラー(SC)の利用推進について、生徒・保護者に毎月を目標に定期的に通知する。 ②(2)職員対象の個に応じた支援に関する研修会を行う。 ③(1)業務の平準化等の整理を行い、20:00までの全館消灯を100日以上達成する。 ③(2)「1人1講座以上受講」を目標に取り組む。	・BLENDによる情報発信 ・生徒・保護者アンケート ・生徒・保護者アンケート ・SC利用状況 ・研修会 ・時間外勤務、直日誌 ・長時間勤務者への面接 ・ストレスチェック結果 ・研修履歴記録	B	○保護者が学校行事に参加、協力する機会が増え、連携が深められた。 ・①保護者は、BLENDを使った成績や種々の通知等、多様な情報提供を求めている。 ○個に応じた指導態勢の整備が進んだ。 ・②(1)通知等により周知が進み、SCに面談しやすい雰囲気が醸成されている。 ・特別支援教育においては、委員会の開催や個別の指導計画作成、情報共有が定着し、体制が強化できた。 ○教育活動がコロナ前の状態に戻っており、中間評価から引き続き業務多忙化の傾向にある。 ・③(1)20:00までの消灯は、1月末現在48日(R6は48日、R7前期で29日)にとどまっている。	○定期試験等の個人成績のBLENDによる提供について、あらためて周知するとともに、成績表の見方についても理解してもらえよう工夫する。 ○様々な通知の電子化を進めるとともに、BLENDの活用を周知する。 ○授業公開、小中高連携は好評であり、今後も無理のない範囲で継続し連携を深める工夫を行う。 ○行事や開催時期等を検証し、業務改善に取り組みながら年間行事を作成し、多忙化を改善する。

学校関係者評価	
実施日(令和8年2月27日)	
評価	意見・要望等
4	・専門科目がないところが昭和高校の良さをつづけている部分でもあると思います。しかし、大学進学において高い志望先を持つ生徒にも対応できるカリキュラムをさらに強化していきたいので、学習面での大きな発展につながる気がします。 ・学習活動については、生徒一人一人の家庭学習における状況(主体的な学習意欲)について更に向上を目指していきたい部分もありますが、行事などの参加意識等については昭和高校らしさがあり、所属感や連帯感が高められていることは素晴らしいと思います。 ・生徒の状況や生活環境に合わせた工夫をされている。 ・高校生が高校生として体験できる学校行事が多く良いと思います。 ・高大連携も文系にも広がっていければとのことですので、さらに受講者が増えてより意義のあるものになると思います。 ・来年度からの55分3カセット導入は生徒の可能性を引き出すことでより高みを目指す生徒が増えるのでは感じないなどの問題も懸念されるので対応を検討していただければと思いました
3	・遅刻指導、安全指導については引き続き行っていただき、心の健康にさらに配慮していただきたい。さわやか教育は本校の伝統であるので、頑張ってください。 ・ほとんどの生徒がスマホを持っている時代なのでなかなか難しいとは思いますがSNSの問題への取り組みのさらなる強化が必要になってくると感じました。 ・ツブブロック規定の改定での大きな混乱がなるべく節度ある行動がとれていたことは、学校側と生徒との良好な関係が築けていると感じます。 ・挨拶をすることやルールを守ることが恰好悪いと感じる時期ではあると思うが、ルールはルールとしてしっかり守らなければなりません。 ・昨今、問題になっているいじめの問題に対してもしっかり対応していると思います。 ・先生方を頼っている生徒にとっては、「働き方改革のために先生が不在」というようなことにはならないのでしょうか。先生方ご自身の健康や自由も必要ですが、子どもたちの「心の健康」にも目を向けていただけたらと思います。
4	・学校行事については、他の高校に比べてとても充実している部分だと思います。昭和高校の最大の良さであり大きな特色なので、今後も大事にしたいです。 ・押原中学校との連携などはとても素晴らしいと思いますし、今後も続けてほしいと感じました。それ以外の近隣の中学校でも連携ができればさらに意義のあるものになるのではと思います。 ・企業や近隣住民との連携なども来年度からのコミュニティスクールも始まりますので強化していくことでより開かれた学校になるのではと思います。 ・次年度はコミュニティスクールになるとのこと。遠慮せずに地域の人も声をかけ、生徒が「昭和高校で学んで良かった」と将来思い返してもらえよう学校にしていきたいですね。 ・スクールカウンセラーの利用が多く、サポートがしっかりしていると感じました。どのようなことを相談できるかをより広めていけばもっと利用者も多くなり、生徒の学校生活の充実につながるのではと思います。

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。
(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。